

友の会

足寄動物化石博物館友の会

デスモクラブ

足寄動物化石博物館友の会は、博物館開館直後の1998年(平成10年)7月15日に発足しました。住民の有志が、「町にできた博物館を支援しよう」と立ち上げました。名前は、デスモチルス(Desmostylus)のデスモ。もとはギリシャ語で、束ねる、つなぐという意味です。

デスモクラブのはじめての行事は「ゾウ掘り」です。発足の年の11月3日に、骨格標本のために埋めてあったアジアゾウの全身の骨を掘り出しました。20名が参加し、泥だらけになりながら、でも楽しくゾウ掘りをしました。

その後、「化石教室」など博物館の行事の世話役として毎回参加するほか、アンモナイト探しや動物園見学など独自の企画を組んで活動を続けてきました。

10年目にあたる今年度の総会で、NPO法人に移行することを決めました。もっと主体的に博物館の運営に参加できるように、また、経済活動面も社会的に認知される形になるようにとの合意ができました。来年度の認可を目指して準備を進めます。

化石を詳しく知りたい方、地球について楽しく学びたい方、などの入会を待っています。お問い合わせは、足寄動物化石博物館まで。



第1回行事「ゾウ掘り」(平成10年11月3日)で発掘したアジアゾウ頭骨(博物館荷解室にて)

足寄動物化石博物館 フォストリーあしよろ

No. 99

2008年 12月24日発行

089-3727 北海道足寄町郊南1丁目 電話 0156-25-9100 ファックス25-9101

Eメール staff@museum.ashoro.hokkaido.jp

ホームページ <http://www.museum.ashoro.hokkaido.jp> (博物館だよりpdf版あり)

足寄動物化石博物館 開館から10年

開館以来10年間、足寄動物化石博物館はなにをしてきたのか、連載してきました。

10 つぎの10年になすべきこと

アショロアとベヘモトプス、2種類の束柱類化石を世に出す目的ではじまった足寄町の博物館計画。開館10年で、「足寄に化石博物館あり」という認識は徐々に定着してきました。さらなる発展にむけて、この次の10年の課題を整理します。

○化石の研究・普及

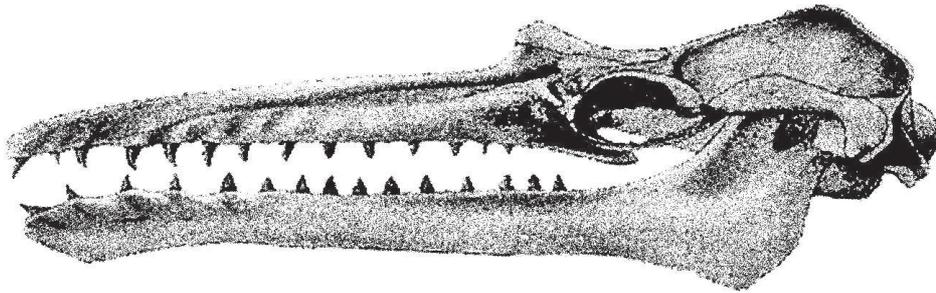
研究面では、犬塚則久さんの地道な研究により実体があきらかになった束柱類に続いて、クジラ類の解明に力をいれる必要があります。ヒゲクジラ、ハクジラの化石は、ともにその進化の初期の姿を復元する上で重要な標本であり、また、日本では現生の標本を利用することもできることから、クジラの進化の総合的な研究が期待されます。

○博物館の利用

修学旅行など学校の利用の増加、「化石体験」を主にしたりピーターの定着もあり、活動の仕方を工夫することで博物館の利用者数の引き上げを図ります。ひろく道民・国民の注目を得るために研究成果や活動内容の広報活動を効率的におこなう必要があります。

○博物館の運営

足寄の化石を研究し、世界にひろめていくために、また、多くの人々が利用しやすくするために、学芸員と研究者が、共同・交流しながら活動できるような新しい運営体制を実現することも重要です。指定管理者制度などの新制度を検討して足寄博物館に適した改善を図る段階にあるといえます。



(いまのところ) 世界に最もよく知られている足寄のクジラ化石
アショロカズハヒゲクジラ=*Aetiocetus polydentatus*

休館日 || 1月 1～6日 13日, 20日, 27日の火曜日

平成21年(2009年)は丑年です。

動物のウシ(類)は、今の地球上で最も繁栄している種類です。

ウシとクジラは、近い親戚でもあります。胃が‘四つ’あるのです。

みなさん、よいお年をお迎えください。